

# 令和7年度版 NEW CROWN

## Q&A

### 目次

<b>全体</b>	<b>2</b>
1. 編修方針と理念	2. 表紙のコンセプト
<b>難易度・分量</b>	<b>3</b>
1. 配当時数	4. 文法事項・文構造の配列
2. 語彙の選定	5. 言語活動
3. 語彙指導の工夫	
<b>構成</b>	<b>4</b>
1. 新しい教科書の構成	5. Goal Activity
2. Part の Scene 1 と Scene 2	6. Project
3. Side Story	7. 2・3年の Lesson 1
4. Small Talk Plus	
<b>言語活動</b>	<b>6</b>
1. リスニング	3. リーディング
2. スピーキング	4. ライティング
<b>小中連携</b>	<b>9</b>
1. 小学校で学んだ言語材料の扱い	3. Starter や My Dictionary の扱い
2. 小中連携の工夫	
<b>デジタル</b>	<b>10</b>
1. ラインナップ	3. QR コードと学習者用デジタル教科書
2. QR コードから使えるデジタルコンテンツ	
<b>カリキュラム</b>	<b>11</b>
1. 評価	5. Team Teaching への対応
2. Can-Do リスト	6. 個別最適な学びへの対応
3. 2学期制への対応	7. 協働的な学びへの対応
4. ラウンド制指導への対応	8. 自律的な学習者を育てる工夫
<b>サポート</b>	<b>13</b>
1. 教師用指導書以外でのサポート	2. 移行措置資料

## 全体

### 1. NEW CROWN の編修方針は何ですか。

英語教育を通して、確かな学力、国際社会に対応できる資質・能力と、豊かな人間性を育成することです。

### NEW CROWN が育てる 4 つの力

#### ことばを使う力

ことばを使うことは、思いを伝えること。ことばを使って理解し、表現し、伝え合いながら、実際のコミュニケーションで活用できる確かな英語力を育成します。

#### 他とかかわる力

かかわることは、互いを認め合うこと。さまざまな人や文化などに触れながら、社会の多様性を理解し、かかわっていく力と、豊かな心を育成します。

#### 考える力

考えることは、自分と向き合うこと。さまざまな活動を通して、目的や場面、状況に応じてコミュニケーションを図る力と、論理的・批判的に考える力を育成します。

#### 学びに向かう力

学ぶことは、自分の可能性を広げること。多様な学び方を経験しながら、学ぶことを楽しむ心と、主体的・協働的に学ぶ力を育成します。

### 2. 表紙のコンセプトは何ですか。

3年間の中学校生活で、さまざまな人や文化と出会い、新しい世界や社会を探究しながら学び、無限の可能性を秘めた未来へとはばたいてほしいという願いをこめました。

## 教科書の難易度・分量

### 1. 各学年の配当時間数はどのようになっていますか。

第1学年は97時間、第2学年は95時間、第3学年は93時間です。年間140時間の70%程度で終わられるようになっています。

### 2. 語彙はどのように選定していますか。

CEFR-J (A1・A2) の語彙リスト、主要辞書のコーパス、中学校英語教科書、小学校英語教科書、学習者コーパスなどを分析して、掲載すべき語彙を精選し、小学校で学習したとみなす語彙（600～700語）と、中学校で学習する語彙（1,600～1,800語）を設定しています。

また、学習指導要領では、生徒の発達段階に合わせて、理解に留める受容レベルの語彙と、活用を目指す発信レベルの語彙とを見極めながら指導することが求められています。NEW CROWN では、小学校と中学校で学ぶ語彙に、発信語彙コーパスをかけ合わせ、小学校で学ぶ語彙のうち374語を、中学校で学ぶ語彙のうち622語を、中学生にとっての発信語彙として設定しています。

### 3. 語彙指導について工夫していることはありますか。

側注の New Words では、中学校で学ぶ発信語彙（622語）を太字で示したり、小学校で学んだ発信語彙（374語）を【🌱】マークとともに太字で示したりして、発信を目指すものと受容に留めるものとは分けて提示することで、軽重をつけながら語彙を学べるようになっています。なお、小学校で学んだ発信語彙（374語）は、すべて教科書の本文中で扱っています。

### 4. 文法事項や文構造の扱いについて工夫していることはありますか。

2・3年の Lesson 1 を復習レッスンとすることで、1年と2年、2年と3年をスムーズにつなぎ、新しい学年の学習を始めることができるようになっています。特に3年では、Lesson 2 で「現在完了進行形」の学習に入る前に、2年の最後に学んだ「現在完了形」を振り返ることで、使用場面や、意味と形の違いなどを比較しながら、理解を図ることができます。

### 5. 言語活動について工夫していることはありますか。

従来の教科書で扱っている全ての言語活動について、配当時間や配置・配列、取り組みのプロセス等を見直し、新しい教科書で扱う言語活動を精選しました。また、各レッスンの目標となる言語活動（Goal Activity）は、レッスンごとに「発信」または「受容」の領域を選択し、それぞれに合わせて、レッスンを目標からバックワードでデザインすることで、Goal Activity に向かって段階的に学びを進めることができるようになっています。

## 教科書構成

### 1. 新しい教科書はどのような構成になっていますか。

従来のように練習と活用の段階を分けるのではなく、レッスンの序盤から言語活動（≒活用の段階）を取り入れ、両者を同時進行的に行うことで、練習と活用の相互作用によって、効果的に学ぶことができます。また、レッスンごとに「発信」または「受容」の領域を選択し、目標となる言語活動（Goal Activity）を設定しました。それぞれの領域に合わせたレッスン構成とすることで、とびらからゴールに向かって段階的に学びを進めることができるようになっていきます。

これにより、新しい NEW CROWN では、「まず使ってみる、そしてもっとうまくいくように練習する」とか、「習ったらすぐに使ってみる、使ってみてうまくいかなかったら練習する」というような、フレキシブルな学習スタイルを実現することができるようになっていきます。

【リンク：TEN 工藤先生 pp.0-1／しくみと使い方 p.2】

### 2. Part の Scene 1 と Scene 2 はどのように扱えばよいですか。

Scene 1, 2 は、それぞれ目的や場面、状況などが明示されており、単元の学習のゴールとなる言語活動（Goal Activity）に向けた一連のストーリーになっています。また、Scene 1, 2 で使われている語句・表現や文章構成なども Goal Activity で活用できるようになっています。

Scene 1 では、既習の言語材料を使った聞く活動を行います。無理のない十分なインプットから基本本文を導入し、Exercise の練習活動へとつなげます。また、Scene 2 のストーリーへとスムーズにつながるように、題材や場面、状況の橋渡しをします。

【リンク：TEN 津久井先生 pp.6-9・中島先生 pp.20-22／しくみと使い方 pp.4-5】

Scene 2 では、Scene 1 からつながるストーリーの展開や結末を、楽しみながら聞いたり、読んだりします。また、英文の概要や要点を捉える Listen & Read や、英文の内容を自分のことに結びつけて考え、表現する Think about Yourself の活動につなげます。

【リンク：TEN 津久井先生 pp.6-9・中島先生 pp.20-22／しくみと使い方 pp.4-5】

### 3. Side Story はどのように扱えばよいですか。

Side Story では、Part の Scene 1, 2 で展開されたストーリーのこぼれ話や補完的なエピソードを取り上げています。Part とは場面が異なるサイドストーリーの展開や結末を楽しみながら聞いたり、読んだりします。また、自然な流れの会話から基本表現を取り上げ、Exercise の練習活動へとつなげます。

【リンク：TEN 津久井先生 pp.6-9・中島先生 pp.20-22／しくみと使い方 p.8】

#### **4. Small Talk Plus はどのように扱えばよいですか。**

Small Talk Plus では、各レッスンの題材に関連したテーマについて、ペアで対話を行いながら、会話を継続したり、深めたりするためのストラテジーやスキルを体系的に学ぶことができます。

【リンク：TEN 今井先生 pp.12-13・駒澤先生 pp.24-25／しくみと使い方 p.9】

#### **5. Goal Activity はどのように扱えばよいですか。**

Goal Activity には、活動のメインが発信領域（書くこと／話すこと）のものと、受容領域（読むこと）のものがあります。それぞれの領域に合わせてレッスンを構成することで、Goal Activity で必要な「題材や場面設定」「語句や表現」「文章構成や展開」を段階的に学んだ上で、Goal Activity に取り組むことができるようになっていきます。

発信領域の Goal Activity では、構成を意識して文を組み立て、自分の考えや意見を書いたり、音声やデリバリーを工夫し、相手に伝わるように発表したりします。

【リンク：TEN 工藤先生 pp.10-11・興津先生 pp.26-27／しくみと使い方 pp.10-11】

受容領域の Goal Activity では、「説明文」「意見文」「物語文」の3つのジャンルの英文を読んで、その概要や要点を捉えます。また、読んだ内容を自分に結びつけて考え、書いたり、話したりします。

【リンク：TEN 白倉先生 pp.14-15・鈴木祐一先生 pp.28-29／しくみと使い方 pp.12-13】

#### **6. Project はどのように扱えばよいですか。**

Project は、第1学年に3回、第2学年に3回、第3学年に3回を配置しています。さまざまな領域や技能を統合した活動に取り組み、事実や自分の考えを整理して、話したり、書いたりします。

【リンク：TEN 奥住先生 pp.36-37／しくみと使い方 p.27】

#### **7. 2・3年の Lesson 1 はどのように扱えばよいですか。**

1年の初めに小学校と中学校の学びをつなぐ単元があるように、1年と2年、2年と3年をつなぐ単元を設けることで、よりスムーズに新しい学年の学習を進めることができます。特に3年においては、Lesson 2 で「現在完了進行形」の学習に入る前に、2年の最後に学んだ「現在完了形」を確認することで、使用場面や、意味と形の違いに着目させながら、理解を図ることができます。

## 言語活動

### 1. リスニングはどのような配置・配列になっていますか。

メインレッスンに Part (Scene 1、Exercise Listen、Scene 2、Listen & Read) を、サブレッスンに Take Action! Listen をそれぞれ設けています。

#### **Part:**

Scene 1 では、Lesson や Part で展開されるストーリーを楽しみながら聞いたり、英文の中からターゲットとなる基本文を取り出して明示的な理解へとつなげたりします。

Exercise Listen では、文脈のある短い会話や説明を聞いて、基本文の意味や形が理解できているかどうかを確認します。

Scene 2 では、Scene 1 からつながるストーリーの展開や結末を、楽しみながら聞きます。

Listen & Read では、Scene 2 の英文を聞いたり、読んだりして、その要点や概要を捉えます。

#### **Take Action! Listen:**

第1学年に5回、第2学年に5回、第3学年に5回を配置しています。さまざまなジャンルのオーセンティックな英文を聞いて、目的や場面、状況に応じて、「聞き手が必要な情報」「話の全体的な内容(概要)」「話し手が伝えたいこと(要点)」を聞き取ります。

【リンク：TEN 白倉先生 pp.14-15・田嶋先生 pp.30-31/しくみと使い方 p.16】

### 2. スピーキングはどのような配置・配列になっていますか。

メインレッスンに Part (Small Talk、Exercise Talk / Speak、Think about Yourself)、Small Talk Plus、Goal Activity (Speak) を、サブレッスンに Take Action! Talk をそれぞれ設けています。

#### **Part:**

Small Talk では、Part のテーマや題材に関連した身近な事柄について、持っている知識や、既習の言語材料を使ってペアで即興のやり取りを行います。

Exercise Talk / Speak では、Listen で聞いた文を参考に、基本文を活用してペアやグループでやり取りしたり、発表したりします。

Think about Yourself では、Scene 1, 2 の内容について感じたことや、自分に結びつけて考えたことを、2~3文で話したり、書いたりします。

#### **Small Talk Plus:**

レッスンの題材に関連したテーマについて、ペアで対話を行いながら、会話を継続したり、深めたりするためのストラテジーやスキルを体系的に学びます。

【リンク：TEN 今井先生 pp.12-13・駒澤先生 pp.24-25/しくみと使い方 p.9】

### **Goal Activity (Speak) :**

「話すこと[発表]」の領域に対応した、レッスンの目標となる言語活動です。音声やデリバリーなどの伝え方を工夫し、自分の考えや意見を、相手に伝わるように発表します。

【リンク：TEN 工藤先生 pp.10-11・興津先生 pp.26-27/しくみと使い方 pp.10-11】

### **Take Action! Talk:**

第1学年に4回、第2学年に4回、第3学年に4回を配置しています。会話の場面と言語の働きを意識しながら即興でやり取りし、道案内などの特定の場面で目的を達成したり、簡単な話し合いを行って議論を深めたりします。

【リンク：TEN 今井先生 pp.12-13・鈴木悟先生 pp.32-33/しくみと使い方 p.15】

### **3. リーディングはどのような配置・配列になっていますか。**

メインレッスンに Part (Scene 2、Listen & Read)、Goal Activity (Read) を、サブレッスンに Take Action! Read、Reading Lesson をそれぞれ設けています。

#### **Part:**

Scene 2 では、Scene 1 からつながるストーリーの展開や結末を楽しみながら聞いたり、英文を読んだりします。

Listen & Read では、Scene 2 の英文を聞いたり、読んだりして、その概要や要点を捉えます。

#### **Goal Activity (Read) :**

「読むこと」の領域に対応した、レッスンの目標となる言語活動です。「説明文」「意見文」「物語文」の3つのジャンルの英文を読んで、その概要や要点を捉えます。

【リンク：TEN 白倉先生 pp.14-15・鈴木祐一先生 pp.28-29/しくみと使い方 pp.12-13】

#### **Take Action! Read:**

第1学年に3回、第2学年に2回、第3学年に2回を配置しています。さまざまなジャンルやテキストタイプの英文から、条件や要望をもとに、必要な情報を読み取ります。

【リンク：TEN 金丸先生 p.34/しくみと使い方 p.17】

#### **Reading Lesson:**

第1学年に2回、第2学年に3回、第3学年に3回を配置しています。文学作品や、社会的な話題の説明文などを読んで、ことばや文化への関心を高めたり、社会的な課題について考えたりします。

【リンク：TEN 白倉先生 pp.14-15/しくみと使い方 p.26】

#### 4. ライティングはどのような配置・配列になっていますか。

メインレッスンに Part (Exercise Write、Think about Yourself)、Goal Activity (Write) を設けています。

##### **Part:**

Exercise Write では、Talk や Speak でやり取りしたり、発表したりしたことを書き留めます。

Think about Yourself では、Scene 1, 2 の内容について感じたことや、自分に結びつけて考えたことを、2~3 文で話したり、書いたりします。

##### **Goal Activity (Write) :**

「書くこと」の領域に対応した、レッスンの目標となる言語活動です。構成を意識して内容を整理したり、「型」を参考に文章を組み立てたりして、自分の考えや意見を書きます。

【リンク：TEN 工藤先生 pp.10-11・興津先生 pp.26-27／しくみと使い方 pp.10-11】



## 小中連携

### 1. 小学校で学習した言語材料はどのように扱っていますか。

#### 語彙

小学校で学習したとみなす語彙（600～700語）は、小学校外国語活動教材『Let's Try!』、小学校英語教科書などを分析して、精選しました。そのうち、すべての中学生にとって、活用を目指す発信レベルの語彙は教科書の本文中で扱い、側注の New Words に別枠で取り上げています。それ以外の語彙については、巻末資料「いろいろな単語」に掲載しています。

#### 表現（文法事項）

小学校で学んだ表現は、1年冒頭の Starter と Lesson 1～4 の中で、ふり返りながら学習することができるようになっています。ただし、1年 Lesson 4 の I went to ... や Where do you want to go? などについては、小学校と同じような活動に取り組む程度にとどめ、1年 Lesson 7～8 で一般動詞や be 動詞の過去形を、2年 Lesson 3 で to 不定詞を、それぞれ改めて学ぶことができるようになっています。

### 2. 小学校との連携について、工夫していることはありますか。

小学校での学びを生かし、中学校での学びへとスムーズにつなげられるように、1年冒頭 Starter と My Dictionary、Lesson 1～4 を小中連携パートとして位置づけています。ここでは、小学校と同じように、身近なことや日常的な話題について、英語を聞いたり、話したりすることから始め、小学校で学んだことをいねいにふり返ります。また、聞いたり、話したりしたことに関連する英文を読んだり、自分のことについて英語で書いたりすることで、段階的に中学校での学びにつなげられるようになっています。

【リンク：TEN 酒井先生 pp.2-5・坂本先生 pp.16-17／内容解説資料 pp.12-17／しくみと使い方 pp.18-25】

### 3. Starter や My Dictionary はどのように扱えばよいですか。

Starter では、前半の 1～4 で、ゲーム要素のある活動に取り組みながら、小学校で学んだ語句や表現を思い起こしたり、後半の 5～6 で、小学校で学んだ英語の文字の読み方と書き方をふり返ったりします。これらの活動への取り組みの様子を観察することで、小学校での学びがどの程度身についているか、確認することができます。

My Dictionary は、小学校で学んだ語句や表現を収録した絵辞典になっています。Starter だけでなく、Lesson 1 以降も継続的に活用することで、1年間を通して小学校で学んだ語句や表現の定着を図ることができます。

## デジタル

### 1. デジタル教科書・教材のラインナップはどのようになっていますか。

生徒用として「学習者用デジタル教科書」と「学習者用デジタル教材」を、教師用として「指導者用デジタル教科書（教材）」をそれぞれご用意しています。

【リンク：内容解説資料 pp.36-37】

### 2. 教科書のQRコードでは、どのようなコンテンツが提供されていますか。

QRコードから、次のようなコンテンツを活用することで、生徒一人一人の学習状況や、興味・関心に応じて、個別最適な学びをサポートしています。

- 本文：音声、テキスト、写真やイラストなど
- 動画：題材の関連資料、文法解説、本文のアニメーションなど
- 練習：基本文のドリル、語句や表現、発音のチェックなど
- 資料：発音図鑑、英和辞典など

【リンク：内容解説資料 pp.8-11／しくみと使い方 pp.6-7】

### 3. QRコードから使えるコンテンツは、学習者用デジタル教科書でも使えますか。

はい、使えます。学習者用デジタル教科書では、紙面に付されたアイコンから、必要なコンテンツにすばやくアクセスし、活用することができます。

## カリキュラム

### 1. どのように評価しますか。

中学卒業時や学年ごとの Can-Do リストをもとに、Lesson ごとに目標を設定し、目標を達成するために必要な言語材料と言語活動を配置するというように、教科書の構成や内容をバックワードでデザインしています。Lesson では、目標となる言語活動（Goal Activity）に向かって段階的に学びを進め、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力」を同時進行で育成できるようになっているため、学習のどのプロセスにおいても、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価を行うことができます。

しかし、Lesson を通して2つの観点を同じ比重で評価するわけではありません。文法事項などの言語材料の習得や小さめの言語活動に取り組む Part の評価では、「知識・技能」の比重が高く、「思考・判断・表現」の比重は低くなります。一方、言語の機能を活用して活動を行う Small Talk Plus や、大きめの言語活動に取り組む Goal Activity の評価では、「知識・技能」の比重は低く、「思考・判断・表現」の比重が高くなります。

Lesson 外に配置されている、Take Action!、Reading Lesson、Project の評価も、Goal Activity と同様に、「知識・技能」の比重が低く、「思考・判断・表現」の比重が高くなります。

### 2. 教科書に対応した Can-Do リストはありますか。

Can-Do リストは、各学年の教科書巻末に掲載しています。また、年間指導計画用資料や、パート別の目標と評価規準例、ふり返しシート、定期テストに使えるリスニングやリーディングの素材などは、教師用指導書や「ことまな学校サポートサイト」でご提供します。

### 3. 2学期制に対応していますか。

長期休暇は1年間に3回ありますので、その休暇を目安にそれぞれの単元を振り分けています。また、評価についても、単元での学習に合わせてパフォーマンステストを行うことができるようになっていますので、2学期制であっても問題なく取り組んでいただけます。

### 4. ラウンド制で指導することはできますか。

ラウンド制の指導では、1年間の授業の中で、切り口を変えながら、1冊の教科書を4~5回くり返し扱います。新しい NEW CROWN では、Scene 1, 2 を設定したことで、教科書本文のストーリーがこれまで以上に味わい深く、豊かになっています。そのため、教科書本文を4~5回くり返すラウンド制の指導とも相性がよく、最後まで楽しみながら学ぶことができます。

## **5. ALT との Team Teaching にはどのように対応していますか。**

教師用指導書に、教科書の言語材料を使ったアクティビティーワークシートを収録しています。英語での指示例が示されているため、ALT との Team Teaching にもご活用いただけます。また、教科書の言語活動であれば、Take Action! や Small Talk Plus は各 1 時間配当のため、Team Teaching の授業に取り入れやすくなっています。なお、『Teacher's Book』（朱書）には、日本語の指示文を英訳したものを掲載しています。

## **6. 「個別最適な学び」には、どのように対応していますか。**

生徒が自分のペースで学習できるコンテンツを、QR コードや学習者用デジタル教科書で提供しています。また、授業で学んだ文法事項を復習するときに使える Language Focus、語彙や音読などの「学び方」を提案する For Self-study など、学びをサポートする資料ページを充実させています。

## **7. 「協働的な学び」には、どのように対応していますか。**

Part では、Small Talk、Exercise、Think about Yourself と、ペアで伝え合う活動を基本とすることで、協働的に学習を進める土台作りができるようにしました。また、Goal Activity や Project には、文章を書いてペアで交換し、感想を言ったり、アドバイスをしたりするようなステップを設けました。こうすることで、相手が書いた文章のよい点を見習ったり、留意点に気づくように促したりすることができます。

## **8. 自律的な学習者を育てるための工夫はありますか。**

巻末資料の Can-Do リストでは学年の学びについて、各単元のとびらでは Lesson での学びについて、それぞれ見通しを立てることができます。特に Lesson は、Goal Activity に向かって段階的に学んでいく構成になっているので、生徒が自ら考えながら学習を進めることができるようになっています。

また、わからないことを調べたり、学習をより深めたりできるように、教科書の巻末資料や、学習者用デジタル教科書など、一人一人の学び方に合わせたサポートを提供しています。

## サポート

### 1. 指導書以外に、サポートはありますか？

「教師用指導書」または「指導者用デジタル教科書（教材）」をご採用いただいた学校向けに、専用ウェブサイト「ことまな学校サポートサイト」をご用意しています。サポートサイトでは、デジタル教科書のアップデートのご案内に加えて、指導書付属データや、授業で活用できる素材をダウンロードすることができます。学校ごとに問い合わせフォームを用意してありますので、お気軽にお問い合わせください。

### 2. 移行措置資料はありますか？

2024年秋頃にホームページにアップする予定です。

## その他（令和3年度版からの変更点について）

### 1. A4サイズにしたのはどうしてですか？

A4サイズにすることで、従来よりも紙面が115%拡大され、英文や文字や写真、イラストをバランスよくレイアウトすることができました。また、脚注や側注で学習の助けになる情報を提供したり、コーナーやイラストの間に区切りを設け、可読性を高めたりすることで、誰もが使いやすい教科書を目指しました。

#### 【机の上でのサイズについて】

上質な紙を使用しているので教科書を開き、読まないページの片側だけを本体のうしろに巻き込むことで、よりコンパクトになります。また、その際、本文は視界の中央に入っています。

### 2. 令和3年度版のDrillは、令和7年度版ではどうなっていますか？

Drillのような反復練習は、授業中だけでなく、家庭学習などでも、くり返し取り組むことで、より高い効果を得ることができます。そのため、令和7年度版のDrillは、指導者用デジタル教科書を使って授業中に取り組むだけでなく、教科書のQRコードや学習者用デジタル教科書を使って、生徒一人一人の学習スタイルに合わせて、柔軟かつ効果的に学習できるようにしました。

### 3. 令和3年度版のUSE Readは、令和7年度版ではどうなっていますか？

令和7年度版の教科書では、PartのScene 2、Goal Activity、Take Action! Read、Reading Lessonの本文を使って、「読むこと」の活動に取り組めるようになっています。この本文の英文は、令和3年度版では9,000語程度でしたが、令和7年度版では8,600語程度となっており、読解力を育てるために必要な分量を確保しています。

題材についても、各学期の終わりに配置されたReading Lessonのテーマやトピックを、その前に学習したレッスンとゆるやかにつながったものとするので、それまでに学習した背景的な知識を活用しながら読むことができます。また、文学作品や、社会的な話題の説明文など、さまざまなテキストタイプや題材の英文に触れることができるようになっています。